



地域やグループでの研修会・勉強会にぜひお声をおかけください！！

「こころの握手で感動の輪を広げよう！」を合言葉に、地域でワークショップ講座を開催しています。



◆地域かかわり隊の活動目的

→人権の視点を取り入れた地域活動の普及！

そのために、

『生き生きとした』

『楽しく』

『将来につながる』

学習活動を支援するをモットーに頑張っています。

「三忘の精神」※1の説明をしている様子

6月1日(土)開催された滋賀学区「人権・生涯」学習推進員研修会で、「地域かかわり隊」がワークショップを行った。テーマは、『何気ない言葉で傷ついた、または傷つけられた』であった。ワークショップに入る前に行ったアイスブレイク※2は、自分の誕生日を声を発せず周りの人に伝え、月毎にかたまり、最終的には輪となるゲーム形式であった。ジェスチャーやロパク等で、互いに何とかコミュニケーションをとろうとしているなかには、突拍子もない誕生日のグループに並んでしまうことになった人もいたが、会場は和やかな雰囲気につつまれた。ワークショップでは、相手を気遣うコミュニケーション力の必要性が話し合われた。

※1 「三忘の精神」とは…

- 1 参加者の尊重(現在の社会的立場を忘れる)
- 2 発言は自由(ただし、相手を傷つけたり、攻撃したりするような発言はしない。)
- 3 発言内容の守秘、発言しないことも自由

※2 アイスブレイクとは…

ワークショップをスムーズに行うため、人と人のわだかまりを解いたり、話し合うきっかけをつくらせるためのちょっとしたゲームやクイズ、運動などのこと。



ワークショップでのお約束を説明している様子

メンバー紹介 (順不同、敬省略)

- | | |
|--------|---------|
| ★加藤 彰三 | ★母坪 みち代 |
| ★出町 明美 | ★佐々木 敏子 |
| ★西田 厚子 | ★蓮 井 敦 |
| ★東 啓子 | ★平野 宏 |

★は新メンバーです

「地域かかわり隊」メンバー募集中！

人権に関するワークショップに関心がある方、事務局(生涯学習課内 ☎528-2635)までご連絡ください。

ちょっと一息! 人権ブレイクタイムコーナー

右の画は、多くの人が一度は見たことのある光景であろう。スマホが普及するようになって、無責任な誹謗・中傷が、自分の知らない不特定多数の人々に拡散するようになった。わたしたちがスマホに向かっている時間は、一日のうち一体どれ位の割合を占めているのであろうか。ツールとして利用すべきスマホが、わたしたちから『会話』を奪おうとしているのではないだろうか。もちろん、スマホは、多くの人にとって、大変便利な必需品ではあるが…。

画のタイトル「weirdo」は「変わった人」と訳されるが、スマホを見ている乗客か、見ていない人か、一体どちらの者を指すのであろう。考えさせられるタイトルであると感じる人は、少なからずいるであろう。



スマートフォンの普及とコミュニケーション



友だちは誰?

大人たちは子どもたちに何を伝えるか

ひと昔前のことを話すと、今の若者に笑われたり、疎まれたりするが、野原や空を友だちと走りまわって泥だらけになって遊んでいた者にとっては、左の画はあまりにも寂しい気がする。ひと昔前の年代になるわたしたちの子どもの頃は、友だちと喧嘩をしたり、仲良くなったりして、相手のことを理解する努力をし、互いを認め合うことを学習してきた。もちろん、不仲のまま別れた友もいる。同じセリフでも、声の抑揚、顔の表情、しぐさ等で、その意味が全く違ってくことを経験してきた。日頃から相手を見ていたからこそ、そういった気づきができたのであろう。今は、もう、自分や自分以外の人を見つめることは必要でなくなったのだろうか。

出典：SNS、スマホ中毒を表す皮肉たっぷりの風刺イラスト
<https://francepresent.com/satire/>

「地域かかわり隊」のワークショップとは …

例えば、地域の行事（地蔵盆や運動会やお祭り）は必要か … というテーマに対し
必要 or まあまあ必要 or あまり必要ではない or 必要ではない に分かれて発言します。



必要派

コミュニケーションを図る絶好のチャンスだから …
絶対必要だ。

不必要派



毎日仕事で忙しいし、ましてや役員なんかにあたりしたら大変だし …
必要ないと思うけど。

どちらかと言えば必要派

役員にあたるのは勘弁して欲しいけど、行事に参加すると、みんなが話しかけてきてくれて楽しいので、なくなってしまふのは寂しいかなあ。



どちらかと言えば不必要派



最近体のあちこち痛いし …
出来れば参加したくないけど、近所づきあいがあるし …
行事が減ってくれば良いけど。

互いの発言や立場を理解し認め合いながら、自分たちの身近な課題について考えることが大切です。そのためのお手伝いをさせてください!!